

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)

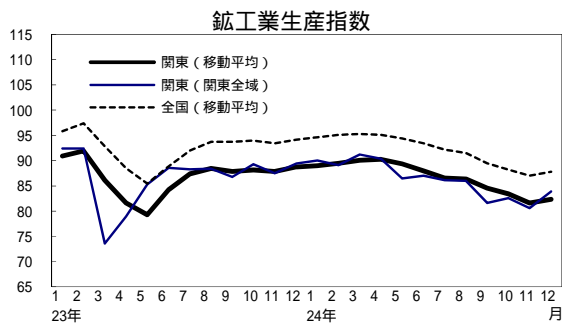
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 11 月)	今回 (平成 25 年 2 月)	
景況判断	弱まっている	下げ止まっている	
鉱工業生産	減少	持ち直しの動き	
個人消費	弱い動き	底堅く推移	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

輸送機械は、震災復興と輸出向けに普通トラック、小型乗用車で増産となり生産の減少幅が縮小している。一般機械は、半導体製造装置が国内半導体メーカーからの受注減、蒸気タービン部品が国内電力会社からの受注減等の影響により減少している。電気機械は、開閉制御装置が国内鉄道会社等からの受注減、電力変換装置が国内電力会社からの受注減等の影響により減少している。



##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

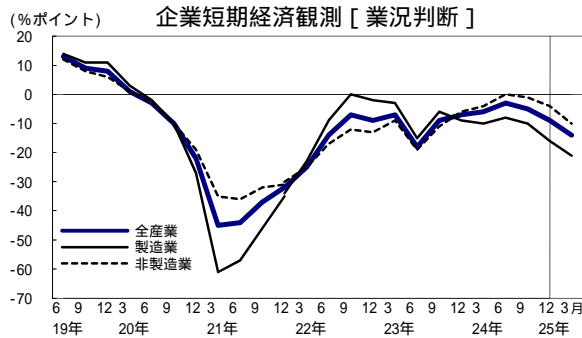
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
輸送機械	15.2	11.9	2.9	3.6	7.5
化学	13.4	3.0			
一般機械	13.2	5.0	8.1	7.1	3.8
電気機械	7.8	4.6	5.3	3.5	5.1
食料品・たばこ	7.1	0.3			
鉱工業	100.0	3.9	2.6	1.9	10.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10~12月期は速報値。化学、食料品・たばこは速報値では公表されていない。

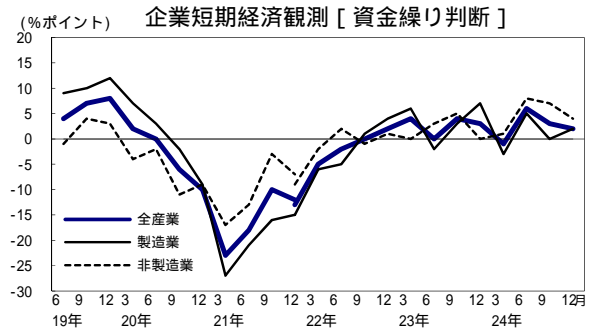
- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

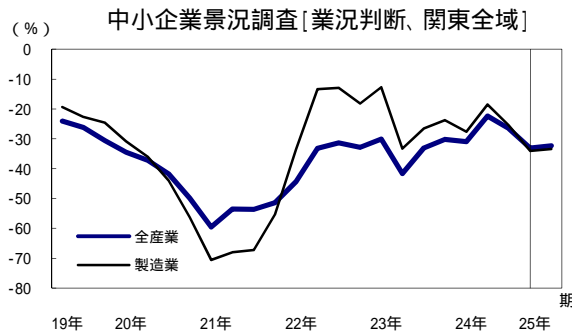
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。  
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「この2か月は、受注量、販売量等が若干落ちている(輸送用機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

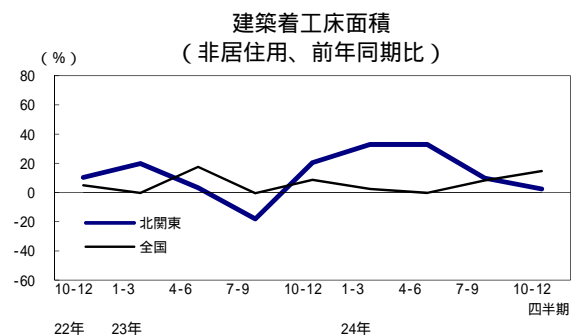
#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	23年度実績	24年度計画
全産業	22.1	1.5 ( 4.0 )
製造業	31.8	2.3 ( 6.4 )
非製造業	5.6	0.5 ( 1.6 )

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

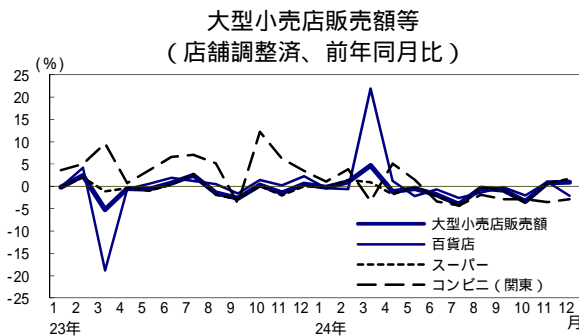
(1) 個人消費は底堅く推移している。

大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で0.5%減、前期比で1.2%増となった。  
 百貨店は、10月は、月前半の気温が高かった影響で、秋・冬物衣料が振るわず、前年を下回った。11月は、気温の低下により冬物衣料雑貨が活発に動いたことから、前年を上回った。  
 12月は、季節商品の需要が前月に前倒しになった影響を受けて不調となり前年を下回った。  
 スーパーは、気温の低下とともに秋・冬季節商材の動きが活発となったが、10月前半の高温の影響と、野菜などの相場の影響により、全体としては前年を下回った。

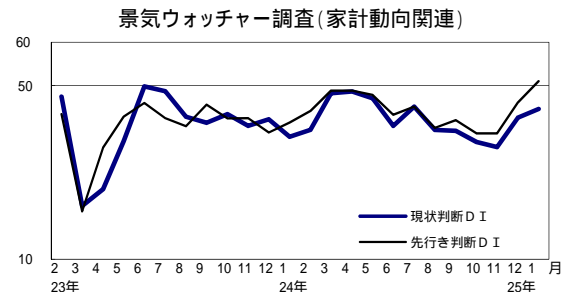
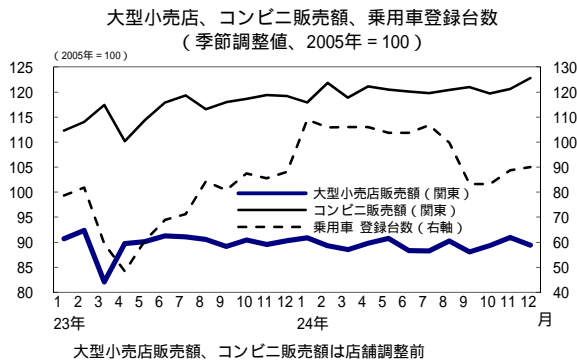
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「消費における強い節約傾向は、年が明けても変わらない。ガソリンや灯油の値上げもあり、消耗品に対する節約意識はやや高まっている感もある(住関連専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	1.8	1.2	1.8	0.5
百貨店(*1)	6.5	0.6	1.5	1.1
スーパー(*1)	0.7	1.4	1.9	0.3
大型小売店(*2)	3.2	0.8	1.3	0.3
(季節調整値)(*3)	(0.6)	(0.1)	(0.9)	(1.2)
乗用車(*4)	50.1	73.4	21.3	0.4
(季節調整値)(*4)	(22.8)	(2.3)	(7.5)	(9.6)

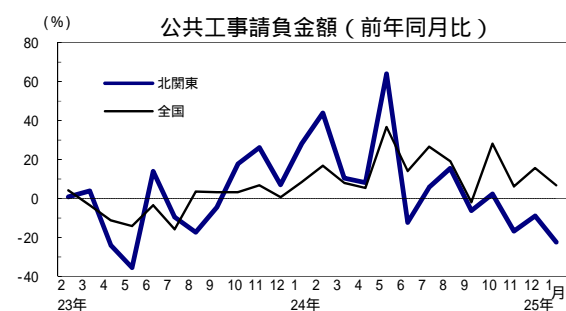
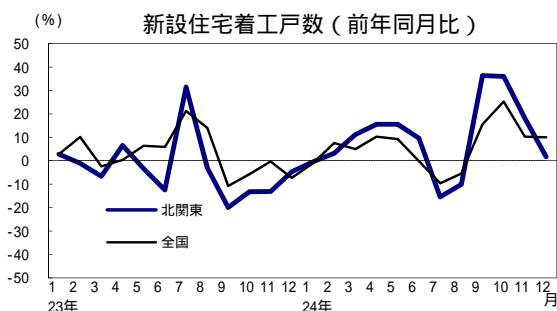
(備考)1.北関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、10-12月は速報値  
 2.北関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、10-12月は速報値  
 3.関東全域、店舗調整前、前期比(%)  
 4.乗用車は新規登録・届出台数  
 (上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

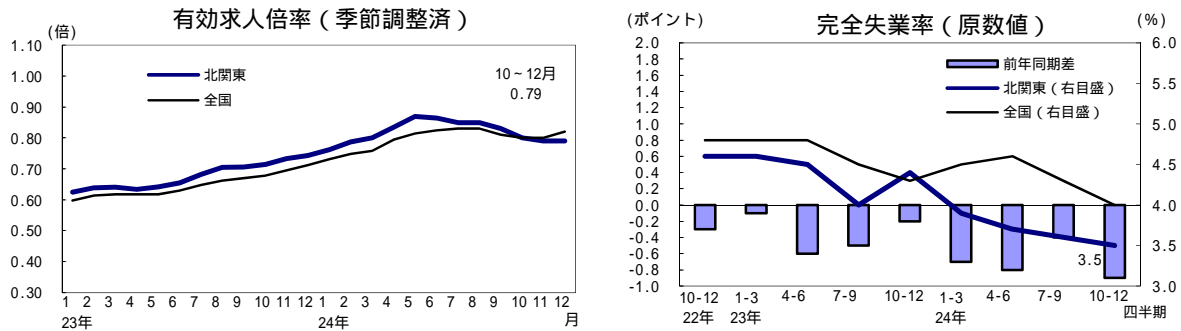


### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢は弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

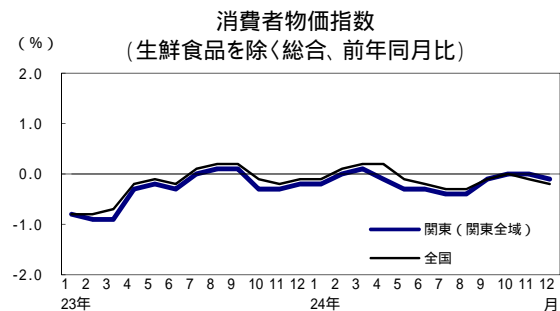
「以前よりは少し良くなったが、どの会社が忙しいということもなく、あまり変わらない（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

#### (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

#### (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	159	158	151	148	50
(前年比)	5.9	14.6	3.4	5.1	13.6
負債総額	396	502	280	278	91
(前年比)	7.7	34.0	94.0	72.6	42.0



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・エコカー補助金の反動減から回復し始めている（乗用車販売店）

<先行き>

- ・新政権になり、株やそのほか明るいニュースが出てきたことによって、企業業績も良くなり、給料も増え、少しでも物が売れてくるように期待を込めてやや良くなる（一般小売店[青果]）

